

三菱電機の製品環境配慮施策

田中基寛*

Mitsubishi Electric's Product Policy for Eco-Conscious Design

Motohiro Tanaka

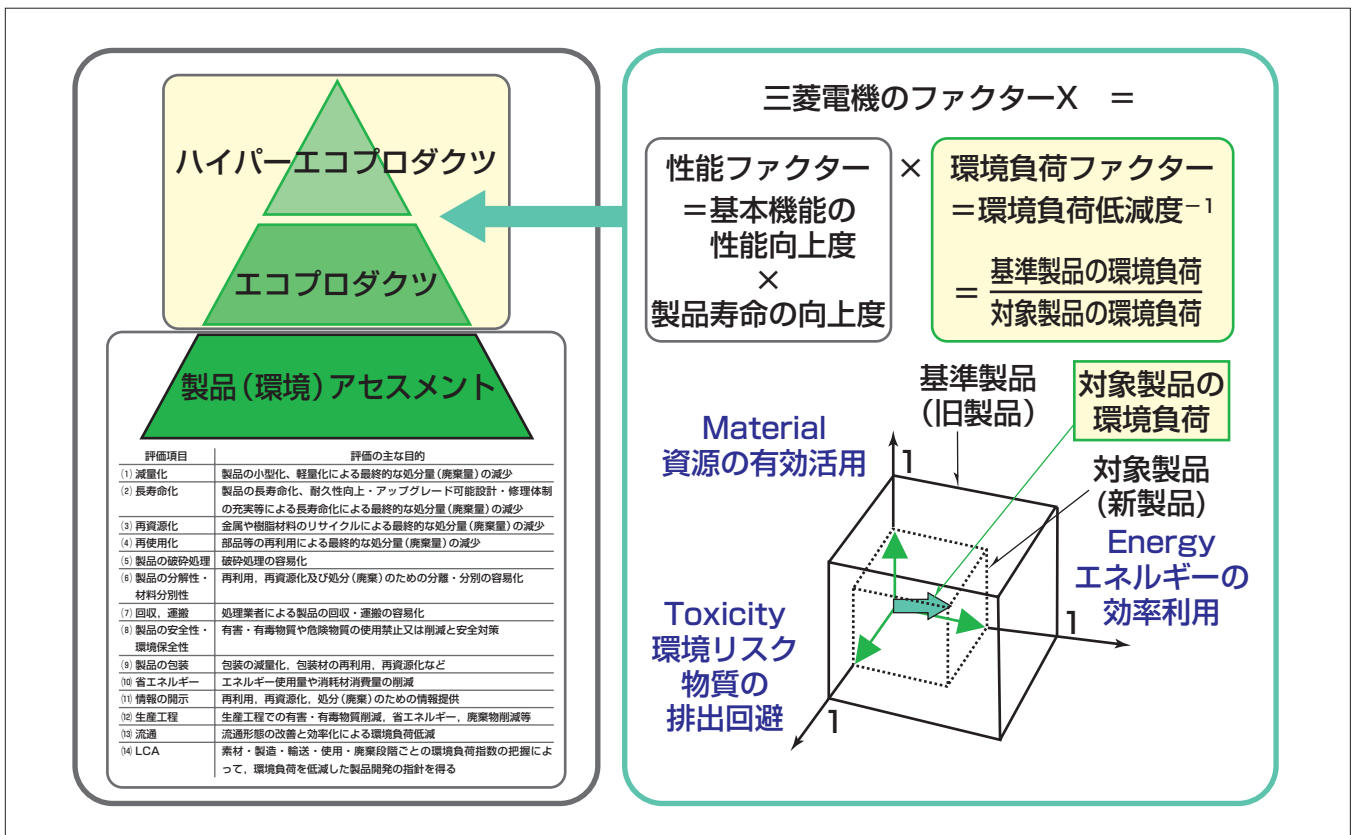
要旨

三菱電機は1980年代終盤から現在までに、製品での環境負荷削減への意識の高まりとともに、製品アセスメントの開発、企業内マネジメント及び企業外へのアピールのツールとしてのファクターX指標の開発、及びそれを用いた製品のランク付け施策(“エコプロダクツ”ハイパーエコプロダクツ)の設定を行ってきた。当社のファクターは複数の性能・環境配慮項目の統合による総合性確保と、その算出過程の簡便性を意図した独自のものであり、国際的にも高評価を得ている。

これに対して2006年11月、当社を含む電機5社によって家電4製品の“共通ファクター”が提案された。これはファクターXで評価するテーマの単一化(地球温暖化防止への

貢献)、算出に必要な要素の単純化(機能及び環境負荷双方の単項目化)、算出過程の共通化による他社製品間での比較可能性向上(現状は不可)等を指向している。

製品評価指標の真・偽は問いにくく、その妥当性は社会的な支持によって決定される。また、その有効性は合目的な指標を選択したときに得られる。こうしたことから、今後は“地球温暖化防止”への危機意識の急速な広がりや、規制等製品環境保全への社会的要請の具体化が進む中、これまでの実践の成果を活用しながら、さらに社会的有効性の高い製品環境負荷低減施策の開発と推進を図る必要があると考えている。



三菱電機の製品環境配慮施策とファクターX

三菱電機の製品環境配慮施策は、MET(Material Energy Toxicity)の視点による環境適合設計の理念に基づく“製品アセスメント”をベースに、METの視点による製品評価指標“ファクターX”を軸とする“エコプロダクツ”ハイパーエコプロダクツ”という製品ランクにより構成している。

*環境推進本部